1　審議会等の名称	令和５年度 第１回三重県観光審議会
2　開催年月日	令和５年５月 30 日（火）
3　委員	【会長】埼玉大学　教授　石阪督規　ほか８名出席　計９名
4　諮問事項	次期三重県観光振興基本計画骨子案に関する審議
5　審議概要	委員からの主なご意見は、以下のとおりです。 ＜計画策定のコンセプト＞ ・10 年後を見据えて３年間の計画とするのはすごく良い。 ・現状分析の前段階として現状把握をしっかりするべき。 ・民間事業者も、お客様のトレンドや反応に基づき将来を描き計画を立てており、そこを行政は拾い上げる必要があるのではないか。 ・県のできることには限りがあり、いかに民間、市町と連携し、県の思いを県のリーダーシップに基づき実現するかの仕組みづくりが重要である。 ＜10 年後のめざす姿・目標＞ ・目標について、最初はありたいイメージを抽象的に記載すればよいが、最終的に数字、データ、指標で示し、責任をもって達成する必要がある。 ・県の経済政策として、域内調達率をどのように上げ、波及効果を高めていくかを KGI（最上位の目標達成指標）とした方がよい。 ＜持続可能な観光＞ ・持続可能な観光は、観光施策の基本、出発点である。観光が持続可能性を有することで、資源も維持され、従業員も働け、企業も儲かり、地域も儲かる。 ・成果を数値化することが必要だが、持続可能な計画をつくる基本として、住民を含む関係者が納得する数字になっているかどうかが重要である。 ・観光の持続可能性については、日本版持続可能な観光ガイドラインを活用する等、具体的な指標でチェックすることを推奨する。 ・強みとして豊かな資源と書いているが、現場では水産資源が獲れなくなってきており、10 年後も安定供給できるものなのか疑問。 ＜三重県観光の強み・弱みについて＞ ・強み弱みの分析が県や審議会委員の目線であり、観光客目線でない。 ・ターゲットを明確化し、その人から見た強み弱みは何かを整理すべき。

	＜質が高く、持続可能な観光地づくり＞ ・観光面ではキラーコンテンツと言える伊勢神宮の最大限の活用を。 ・住民が大切にしているコンテンツを起点に考えるのはどうか。住民目線で考えると、住民が一番見てほしいものを見に来る観光客に対し、住民はおもてなしをしたくなり、「住民よし」から「旅行者よし」につながる。 ・「もう一つのお伊勢参り」と呼ばれる伊勢西国三十三所観音巡礼も、日本の豊かな文化を発信する新しいコンテンツとなり得るのではないか。 ・伊勢志摩・吉野熊野国立公園の観光資源としての活用も必要ではないか。 ・旅行スタイルや滞在の仕方により滞在日数を増やすことも重要であり、一か所で長く滞在してもらう仕組みづくりも必要である。 ・子連れの場合周遊は難しく、一か所で完結する旅の方が好まれるため、その中でどう消費額を増やす取組を行うかに着目するのも良い。 ・国が提案する周遊ルートづくりは、滞在日数が延びたという現実的なマーケット結果は出ておらず、連泊促進という観点では懐疑的と考える。 ・二次交通、観光インフラの整備も大切である。 ＜戦略的な観光誘客の推進＞ ・式年遷宮の観光面への恩恵を最大限活用し、県内自治体がマーケティングに基づいたプロモーションを実施してはどうか。 ・富裕層に振り切った誘客策も良いのでは。例えば、世界一のシェフをホテルに招聘し、三重の食材でオリジナルメニューを開発、１泊数十万で販売すれば、大きな経済効果と口コミ等での波及効果が期待できる。 ・観光消費額を増やすには、入込客数と平均滞在日数の両方を増やさなければならないと考える。入込客数増のためには、三重県の立地条件を活かし中部・関西圏からいかに集客するかが重要。平均滞在日数増のためには、滞在日数が長い首都圏からの誘客も有効である。 ・三重県は広く、地域で特色が違うことから、地域の特色を生かしつつ、地域間で潰しあわないポジショニングマーケティングが重要である。 ・今後の観光誘客に向けては、今は、Ｙ世代、Ｚ世代やインバウンドの潜在的なニーズを理解する必要がある。 ・ロイヤリティを高める（三重県に愛着を持ってもらう）展開が必要である。 ・口コミや SNS の力で情報が拡散されており、このつながりも大切である。

	＜魅力的な観光産業の確立＞ ・サービス業の人材流出が進む中、優秀な観光人材が地域に根付くには、給与アップ、待遇改善、サービス業の魅力発信等が必要であり、それを計画の一本の柱とすることは大事だと思う。 ・従業員の満足度の要素の１つは所得。所得上昇が産業の評価を上げ、地域の若者にとって観光業が憧れとなり、持続性が担保されるのではないか。 ・観光産業の人材不足は今後相当厳しい状況となる。地域の若い人材に県内の観光業に就職してもらうため、中学生への教育から考える必要があるのでは。また、外国人材の獲得を考えるなら、現在の観光産業の所得では獲得が困難なため、県で特別な優遇策などを用意する必要があるのではないか。 ＜MICE 誘致＞ ・三重県でどんなテーマの会議を開催したら地域の発展につながるのかという観点から会議ターゲットの明確化が必要。海洋、水産、ユニバーサルツーリズムと言った地域の強みを中心に会議を開催すればどうか。 ・MICE 開催時には、経済効果の面から滞在日数や宿泊人数を拡大する視点が必要。県内各地で分散して分科会を開催するなど波及効果を意識した仕掛けを。 ・MICE の開催をきっかけとした来訪者のリピーター化など、MICE をチャンスとしてインバウンド増加につなげる取組が必要である。